

原発も経済成長もいらない幸福な社会を目指して

# 縮小社会への道 (学習会)

これまで、「なんとなく不安をもちながら、この数十年なんとかなってきた、これからもなんとかなるであろう」と誰もが将来の議論を避けてきた。しかし、福島原発事故は、エネルギー、食料、安心、子どもの未来といった人類の本質的な課題を突きつける出来事であった。悲観的な予測よりも、楽観的な期待にすぎり、都合の悪いことには目を閉ざして生きる方が楽である。環境は科学技術の進歩で解決されるといった期待でもって今日の延長上の明日を想定し、成長路線を走ってきた。年 2%の経済成長でも、100 年後には 7.1 倍になる。このまま推移すれば、資源は減り続け、環境は悪化し続ける。資源の長期使用と環境の持続、すなわち、少なくとも子や孫が健康な生活を持続するためには、今の資源消費量を縮小するしかない。

日時：2018年 11月 11日(日) 13:30~

(13:00開場)

場所：神戸市勤労会館 407 会議室(4F)

参加費：500円

「・・・これは量的な縮小であって、質的な後退ではない。すなわち資源の消費を縮小することによって社会は持続することができる。そして、より幸せな生活を実現することは可能である」ということである。したがって、エネルギーの使用量は縮小しても社会は発展することができるし、幸せな生活も送ることができる。別の表現をすれば、悲惨な未来を回避するためには、縮小社会に向かって発展するべきであるともいえる。そこで、持続という玉虫色の言葉を避けて、あえて縮小という言葉を使っている。日本の人口は縮小を始めており、2100 年には、4959 万人になると予想されている。人口縮小と資源使用の縮小がうまく調和して進行すると、破局は回避できる。これまで、解決策のないものに対しては、常に、「科学技術の進歩に期待」といわれてきた。しかし、可能なものと不可能なものを明確にする必要がある。

## 講師：松久 寛さんのプロフィール

2012 年、京都大学大学院工学研究科機械理工学専攻教授を退職。2008 年「縮小社会研究会」を立ち上げ、原発事故を文社会の転換期と感じ、各地で講演活動などを行っている。

著書：「縮小社会への道」、「楽しい縮小社会（共著）」等

所在地：神戸市中央区雲井通 5-1-2

電話：078-232-1881 JR 三ノ宮駅から徒歩 5 分⇒



主催：神戸子どもを守る会

お問合せ：090-5886-8364 (高橋)